



Top Message

新たな成長ステージを戦略的に作り出し  
ステークホルダーの皆さまからの期待に  
応えていきたいと思えます。

代表取締役社長 CEO リード・パトリック

Q 2021年12月期の振り返りと事業の進捗について  
ご説明願います。

厳しい事業環境が続く中、当期純利益については  
業績予想通りの落着となりました。

2021年12月期は、3つの事業戦略ごとに振り返りますと「創薬共同研究開発」では2件のマイルストーン達成と2件の新規契約、「PDPSの非独占的技術ライセンス」では1件のマイルストーン達成と1件の新規契約、「戦略的提携による自社パイプライン拡充」では、2件のマイルストーン達成と7件のプログラム進捗がありました。

以上の結果、売上高は約93億円、営業利益は約44億円となりました。依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続く厳しい事業環境の中、当期純利益については約36億円と期初予想通りの落着となりました。

Q プログラムの2021年12月期(今期)の進捗と  
2022年12月期(来期)以降の見通しはいかが  
でしょうか。

2022年12月期は既存プログラムのステージアップ  
に注力。2024年の新研究棟の稼働開始を見据え  
て段階的に新規プログラム数を増加していきます。

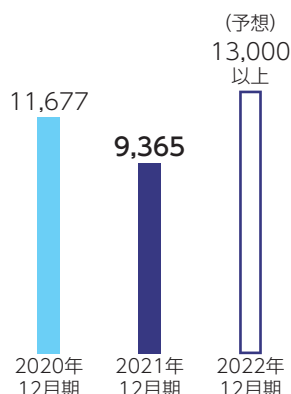
2021年12月期は、コロナ禍による臨床試験開始時期の遅れが想定以上に大きかったこともあり、臨床開発入りは1プログラムとなりました。2022年12月期は、既に最終準備段階にあるプログラムを含めて可能な限り臨床入りの加速を推進してまいります。

プログラム全体の進捗に関しては、現研究棟での対応キャパシティが逼迫しつつある現状を踏まえ、優先順位の高いプログラムのステージアップに注力するとともに、新規プログラムについては優先度の高いものに絞る形で進めてまいります。2024年には新研究棟の竣工を予定しており、また新棟稼働に伴って人員数や新たな機能強化も予定していることから、これらを見据えて段階的に新規プログラム数を増加していく予定です。

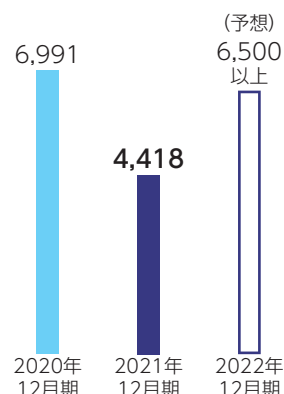
2021年12月期 業績概要

(単位：百万円)

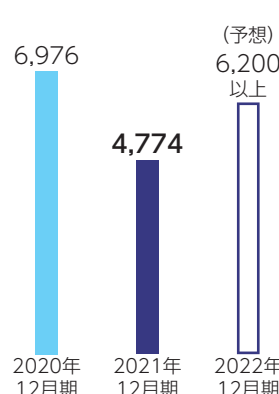
売上高



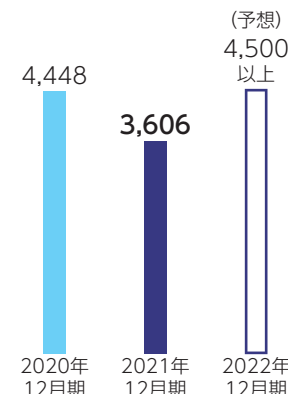
営業利益



経常利益



当期純利益



**Q 今後の事業の方向性を教えてください。**

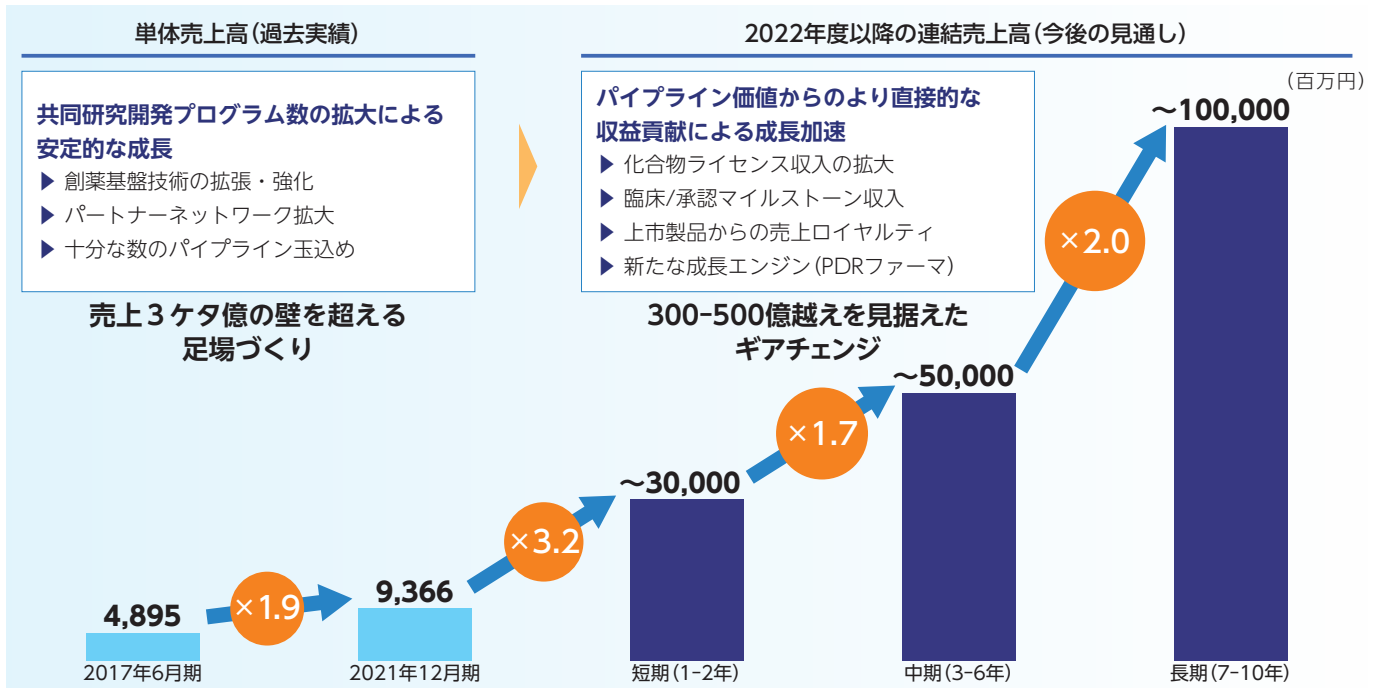
**まだまだ大きな可能性をもつPDCプログラムを拡大していくとともに、新たな事業の柱として放射線医薬品事業(PDRファーマ)を成長軌道に乗せることが重要と考えています。**

PDC (Peptide Drug Conjugate) プログラムについては、1つのキャリアペプチドを基に複数のプログラムや製品に分岐していく「ハブ&スポーク」モデルを特徴としており、これまでも着実にプログラム数を増加させるとともに、各社が注力するペイロードとの組み合わせによりプログラム当たりの契約規模が拡大しつつあります。現在、フィジビリティ試験を進めている各種PDCプログラムを含めて、今後も着実に契約拡大を進めてまいります。

2022年3月28日から、当社の新たな事業の柱である放射性医薬品事業において中心的な役割を担っていくPDRファーマ株式会社(PDRファーマ)が当社の100%子会社として新たにスタートします。PDRファーマでは、既存事業の早期黒字化を実現するとともに、次なる成長に向けた開発パイプラインの拡充を積極的に進める予定です。また、当社がこれまで放射性医薬品(RI-PDC)領域で構築してきた技術的優位性やパートナーネットワークも最大限活用することで、PDRファーマは、日本市場のPartner of Choiceとして国内No.1の放射性医薬品企業を目指してまいります。

2022年12月期から国際会計基準(IFRS)に基づく連結会計への移行を予定しています。今期から新たな成長ステージを迎え、連結での売上高規模は短期(1~2年)では300億円、中期(3~6年)では500億円、長期(7~10年)では1,000億円を目指してまいります。

**新たな成長ステージと売上高規模の推移**



**Q サステナビリティへの取り組みについて教えてください。**

**自社事業活動の「カーボンニュートラル」を実現しました。**

2026年までの中期目標として掲げていました自社事業活動の「カーボンニュートラル」を4年前倒しで実現いたしました。2022年1月以降、当社の自社事業活動による二酸化炭素排出量 (Scope 1/2) は実質ゼロとなります。

また当社は、サステナビリティの取り組みは当社及び社会全体の持続的成長に必要な不可欠なものとして積極的に取り組みを進めており、その結果として各種外部評価機関からの評価スコアも年々向上しております。今後も、引き続きサステナビリティへの取り組みを推進してまいります。

**Q ステークホルダーへのメッセージをお願いします。**

**新たな成長ステージを戦略的に創り出すことで期待に応えてまいります。**

当社は、病気で苦しんでいる世界中の人々のための医薬品開発に取り組み、企業ビジョンとして掲げている「Drug Discovery Powerhouse」として、またペプチド創薬のグローバルリーダーとして、株主の皆様をはじめパートナー先や従業員などすべてのステークホルダーから共感される存在でありたいと考えております。今後も、新たな成長ステージを戦略的に創り出すことで皆様からの期待に応えていきたいと考えておりますので、引き続き、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

## 1 戦略的パートナーBiohaven Pharmaceuticals社が開発を進めている多発性骨髄腫治療薬候補「BHV-1100(ARM)+自家NK細胞」の第1a/1b相臨床試験の第1例目患者登録が完了

当社の戦略的パートナー企業である米国Biohaven Pharmaceuticals社(以下、Biohaven社)との間で開発を進めている多発性骨髄腫に対する治療薬候補「BHV-1100(ARM)+自家NK細胞」の米国における第1a/1b相臨床試験の最初の被検者への投与及び登録が完了しました。

BHV-1100は、骨髄腫細胞で発現するCD38をターゲットに当社のPDPSを用いて特定された特殊環状ペプチドと、Biohaven社の独自技術である免疫細胞を誘導するARM™ (Antibody Recruiting Molecule) を組み合わせた臨床候補化合物です。「BHV-1100(ARM)+自家NK細胞」は、2020年9月に米国FDAからオーファンドラッグ(希少疾患用医薬品)指定を受けています。

今回の臨床試験では、造血幹細胞移植前に測定可能残存病変が陽性の多発性骨髄腫の被検者に対して、「BHV-1100(ARM)+自家NK細胞」の安全性、忍容性、探索的有効性に関して評価を実施します。

## 2 ペプチエイドが新型コロナウイルス感染症治療薬の開発候補PA-001の臨床研究を開始

当社の関連会社であるペプチエイド株式会社(以下、ペプチエイド)は、新型コロナウイルス感染症治療薬の開発候補PA-001の国内での臨床研究を2022年2月より開始しました。

ペプチエイド株式会社は、「新型コロナウイルス感染症に対して有効な治療薬を世界中の医療現場にいち早く届ける」という社会的意義に賛同した富士通株式会社・みずほキャピタル株式会社・株式会社竹中工務店・キング化学株式会社・当社の5社が、新型コロナウイルス感染症治療薬の開発を目的として2020年11月に設立した合併会社です。

PA-001は、これまで従来型のSARS-CoV-2やアルファ株、ベータ株、ガンマ株、デルタ株の変異株に対して高い抗ウイルス活性を有することを確認しておりましたが、国立感染症研究所との共同研究における生ウイルスを用いたin vitro試験の結果、オミクロン株に対しても他の変異株に対するものと同等の高い抗ウイルス活性を有することを確認しております。

## 3 川崎市殿町国際戦略拠点(キングスカイフロント)の土地取得及び新研究棟の増設

当社は、川崎市殿町地区国際戦略拠点(キングスカイフロント)にある現在の当社本社近接の土地を取得することを2021年9月に発表いたしました。取得する土地には、当社の新研究棟の増設を予定しており、今後のさらなる事業拡大を見据えた研究開発機能の強化・拡充を計画しております。当該新研究棟は2024年の竣工を予定しており、当該建設に係る費用は手元資金ならびに金融機関からの借入による充当を予定しております。新研究棟の詳細については決定次第発表いたします。



## Message Chief Medical Officer 就任メッセージ

村上 雅人

Chief Medical Officer (CMO)

● 略歴

東海大学医学部卒業後、病理医として勤務し、東京大学大学院で医学博士を取得。2007年よりFIRC分子腫瘍研究所(イタリア、ミラノ)でがん研究に従事し、2010年よりスイス・ノバルティス社(バーゼル本社研究所)で創薬、トランスレーショナル研究、初期臨床開発に従事。2016年より第一三共株式会社で、日本、アメリカをベースにバイオマーカー推進部長、グローバルプレジジョンメディシン部長を務める。2013年に米国ラサール大学でMBA(経営学修士)を取得。



2022年1月に、ペプチドリーム株式会社のCMO(Chief Medical Officer)に就任いたしました村上雅人です。私はこれまで、アカデミアで分子生物学研究、医師として臨床、そして製薬企業で医薬品研究開発と、日米欧で様々な経験を積んで参りました。医学部卒業後は臨床病理、分子病理に従事し、臨床医と協業しながら患者様の病気を診断、治療してきました。ミラノ(イタリア)でフェローとして研究していた際に、製薬会社との協業から「医薬品を通じて、さらに多くの患者さんを助けたい、治療したい」と感じて以来、一貫して製薬に力を注いでおります。バーゼル(スイス)のノバルティス社ではオンコロジー病理部門長として創薬、トランスレーショナル研究<sup>\*</sup>、初期臨床開発を担当し、弊社COOの舩屋と一緒にプロジェクトも担当いたしました。前職の日本の製薬会社では日本とアメリカをベースにし、がん企業への方向転換、トランスレーショナル組織の設計、構築、および早期・後期臨床開発に尽力し、貢献してまいりました。

ペプチドリームは昨年設立15周年を迎えたばかりの企業で、若く活発な社員が多い印象を持っております。社内の意思決定が早く、周りの環境にすぐ対応できるスピードを兼ね備えた会社として、その勢いを肌で感じています。創薬研究ステージにおいて、既にグローバルファーマをはじめとした国内外の数多くのパートナー企業と協業し、ペプチド創薬界では世界のパイオニアとして大きな存在感を示しております。また、本年3月にはPDRファーマと一緒に、次の大きな成長ステージに入ります。

今後私は、創薬企業から製薬企業への転換、パイプラインの価値の最大化、企業価値の最大化を果たすべく邁進し、創薬から製薬へ、「Drug Discovery Powerhouse」の実現を通じてペプチドリームを成長させ、多くのステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。

今後とも引き続き「ペプチドリーム」へご支援を賜りますようお願い申し上げます。

<sup>\*</sup> 医薬品開発において基礎研究から臨床開発への橋渡し機能

## ESG Topics

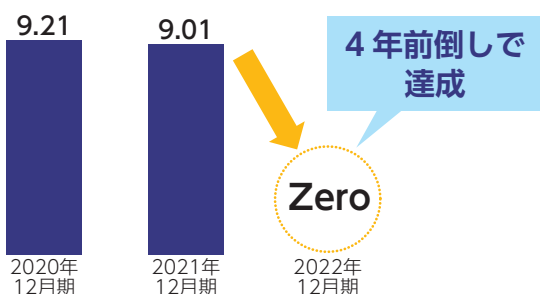
### 「カーボンニュートラル」を実現

当社は2022年1月より、事業活動におけるGHG(温室効果ガス)排出(Scope1+2)が主に電力消費に由来することを鑑み、本社・研究所で消費する電力を実質CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)フリーとなる電力を導入することにより、自社事業活動における「カーボンニュートラル」を実現いたしました。

2026年度までの中期目標として自社事業活動の「カーボンニュートラル」の実現を2021年3月に掲げましたが、4年前倒しで達成することとなりました。

当社は引き続き、企業の持続的な成長に不可欠なものとしてサステナビリティへの取り組みを積極的に推進してまいります。

従業員一人当たりのCO<sub>2</sub>排出量 (Scope 1 + 2) (t-CO<sub>2</sub>)



### ESGに関する外部評価

当社は継続的なサステナビリティへの取り組みが評価され、ESGインデックスの構成銘柄への選定や、様々なESG外部評価機関から評価されております。

ESGインデックスへの組み入れとしましては、英国のFTSE Russellが開発したESG投資指数である「FTSE4Good Index Series」並びに日本企業を対象とした「FTSE Blossom Japan Index Status」の構成銘柄に継続選定されました。

外部評価としてはグローバルなESG評価機関であるSustainalytics社から、ESGの取り組みに関して業界最高水準にあるとの高い評価を受け「TOP-RATED ESG PERFORMER 2022」を受賞しました。また、環境情報開示に取り組むCDPの「気候変動プログラム」に2021年度から参加し、B評価を取得しております。

	2020年12月期	2021年12月期
Dow Jones Sustainability Indices (ESGスコア)	28点	↑36点
MSCI (ESGスコア)	B	▶B
FTSE Russell (ESGスコア)	3.4	↑3.6
CDP* (気候変動スコア)	—	B 評価
Sustainalytics (リスクスコア)	27.6	↑17.3

出所: 各社公表資料を基にペプチドリーム作成  
\*CDP: カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト

## 会社の概要

設立	2006年7月
資本金	3,956,738,000円
事業内容	創薬研究開発業
本社	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-23 TEL (IR 広報) 044-223-6612
主要取引先	小野薬品工業(株)、参天製薬(株)、塩野義製薬(株)、 住友化学(株)、大鵬薬品工業(株)、 米 Alnylam、米 Bristol-Myers Squibb、米 Janssen、 米 RayzeBio、米 Takeda USA

## 役員 の 状 況

**代表取締役社長 CEO** **リード・パトリック**  
NRSA 研究員、国立大学法人東京大学先端科学技術研究センター特任助教授、同大学国際・産学共同研究センター客員助教授及び特任助教授、当社常務取締役研究開発部担当を経て、現任

**取締役副社長 COO** **舛屋 圭一**  
三菱化学(株) (現田辺三菱製薬(株))、Novartis International AG, Head of PPI Drug Discovery and Novartis Leading Scientist を経て、現任

**取締役副社長 CFO** **金城 聖文**  
(株)ボストン・コンサルティング・グループ(BCG) パートナー&マネージングディレクターを経て、現任

**社外取締役(監査等委員)** **笹岡 三千雄**  
大塚化学(株)探索研究所所長、同社常務執行役員を経て、現任

**社外取締役(監査等委員)** **長江 敏男**  
塩野義製薬(株)、アベンティスファーマ(株) (現サノフィ(株)) 執行役員、ヨーク・ファーマ(株)代表取締役社長を経て、現任

**社外取締役(監査等委員)** **花房 幸範**  
青山監査法人を経て、アカウンティングワークス(株)設立代表取締役、アーランドサービス(株)取締役(監査等委員)を経て、現任

**社外取締役(監査等委員)** **宇都宮 純子**  
長島・大野・常松法律事務所、宇都宮・清水・陽来法律事務所パートナーを経て、現任

## 株式の状況

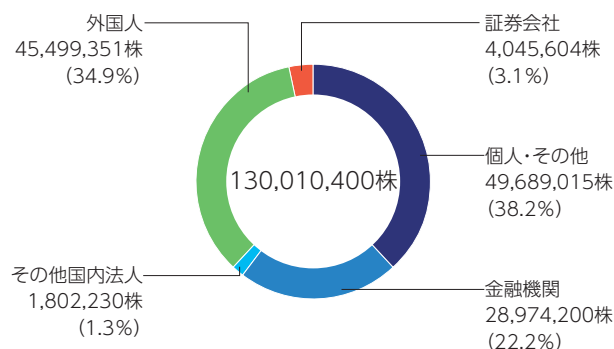
発行可能株式総数	342,400,000株
発行済株式総数	130,010,400株
株主数	26,506名

## 大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	16,066	12.36
窪田 規一	13,612	10.47
菅 裕明	12,442	9.57
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	8,008	6.16
リード・パトリック	6,490	4.99
村上 裕	4,377	3.37
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	3,698	2.84
TAIYO FUND, L.P.	2,844	2.19
中島 喜一郎	2,050	1.58
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	1,970	1.52

(注) 持株比率は自己株式(164株)を控除して計算しております。なお、自己株式の数には、株式給付信託の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式182,800株は含まれておりません。

## 所有者別株式分布



## 株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
株主確定基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当を行う場合 12月31日 中間配当を行う場合 6月30日
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 取次所: 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。当社の公告掲載 URL は次のとおりであります。 <a href="https://www.peptidream.com/">https://www.peptidream.com/</a>

## ホームページのご案内



<https://www.peptidream.com/>

ペプチドリーム 検索



## ペプチドリーム株式会社

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-23  
TEL (IR 広報) 044-223-6612

<https://www.peptidream.com/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。